

# 赤十字NEWS

February 2016 Vol.909  
http://www.jrc.or.jp



日本赤十字社  
人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

赤十字新聞 編集・発行 / 日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



## 献血運搬車「大鵬号」 ゴルフ界にも支援の輪

元横網・大鵬の納谷幸喜さんが40年余りにわたり続けた献血運搬車「大鵬号」の寄贈活動。プロゴルファー青木功さんらが実行委員を務めるザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント大会実行委員会から1月13日、その復活第3号となる大鵬号が日本赤十字社に寄贈され、贈呈式が行われました。(2面に詳報)

青木さん(左)、大鵬さんの妻・納谷芳子さん(中) から車のキーを受け取る日赤・近衛社長(右)

### CONTENTS

#### TOPICS 2

- 青木功さん  
献血運搬車「大鵬号」贈呈式
- 一杯一円!  
ゆで太郎が基金設立
- 健康豆知識 逆流性食道炎
- 常任理事会開催報告  
第87回代議員会開催公告

#### TOPICS 3

- キティちゃん  
社会福祉施設を訪問
- Song for the Life  
音楽コンテスト応募作品受付中
- 造血幹細胞移植事業の  
広報誌創刊
- Voices to action  
世界中の市民が赤十字へ提言

#### SPECIAL 4 5

- 地域包括ケアシステム×日本赤十字社  
医療支援  
ボランティア支援  
地域を支える先頭に

#### AREA NEWS 6 7

- 兵庫・愛知・大分・長野・富山・茨城・新潟  
富山・東京・鹿児島・神奈川・奈良・島根  
山梨・福岡  
こころからの寄付  
Voice&プレゼント

#### WORLD 8

- マングローブ植林から  
総合的な防災へ(ベトナム)
- シリア紛争犠牲者支援  
ICRCの病棟に看護師派遣  
(レバノン)
- 血液バッグ約1万セットを  
緊急支援(ネパール)
- コラム 被爆70年  
守るべきいのちと尊厳



### 今月の出会い



シンガーソングライター  
山本 正之さん

### リクエストを募金に変えて世界へ

70年代の人気アニメ「タイムボカン」「ヤッターマン」などのアニメソングで知られる山本正之さん。コンサートで行うチャリティーオークションの収益を20年以上にわたり「NHK海外たすけあい」に寄付し続けています。

寄付のきっかけは、新聞に載った一枚の写真。「地雷で足を失ったカンボジアの少女が、松葉づえを抱えながらほほ笑んでいた。その姿を見た時、何かできないのかって思ったんです」と振り返ります。「私には音楽しかできません。音楽で頂いたお金を支援という形に変えて世界に届けてくれるのが赤十字なんです」

「リクエストショー」と銘打ったコンサートは、山本さんに歌って

ほしい曲をオークションで落札した人がリクエストできるスタイル。商品も山本さんの私物に加えて、ときには落札者が作った詞に山本さんが即興で曲を付けるサービスや、ひざの上でラブソングを歌ってくれる特典であったりとユニークさが特色です。

「お客さんはヤッターマン世代の40～50代の常連さん。皆さん楽しみながら協力してくれて、本当に感謝です。僕にはこのくらいしかできませんが、これからも可能な限り続けていきたいですね」

#### PROFILE

1951年愛知県生まれ。1974年中日ドラゴンズの応援歌「燃えよドラゴンズ!」で作詩作曲家デビュー。翌年、作詞作曲したアニメ「タイムボカン」の主題歌で歌手デビューも果たす。隔年で全国を回るリクエストショーのテーマソング「大義援オモカゲマンの歌」の歌詞には赤十字への熱い期待が込められている。

# 「世界のアオキ」から献血運搬車「大鵬号」

## ザ・レジェンド・チャリティー プロアマトーナメントから寄贈



73台目の大鵬号は北海道赤十字血液センターに配備され、血液輸送に活用されます

プロゴルファー青木功さんが実行委員を務めるザ・レジェンド・チャリティープロアマトーナメント大会実行委員会から1月13日、献血運搬車「大鵬号」が寄贈され、日本赤十字社本社(東京・港区)で贈呈式が行われました。

大鵬号は、元横綱・大鵬の納谷幸喜さん(享年72)が昭和44年から平成21年まで70台を寄贈してきたもの。平成25年に大鵬さんの妻・納谷芳子さんが大鵬号復活を発案し、これまで横綱白鵬関、株式会社バスポート(大鵬道場後援団体の支援で71、72台

目録、納谷さんから車のキーがそれぞれ日赤の近衛忠輝社長に手渡されました。近衛社長からは同トーナメント大会実行委員会に金色有功章が授与されました。

贈呈式後の会見で青木さんは「僕も大鵬さんのファンだった一人。長い期間にわたって寄贈を続けられてきた大鵬号は素晴らしい取り組み。体の続く限りチャリティープロアマトーナメントを続けて困っている人たちの力になっていきたい」と抱負を語りました。

納谷さんは、大鵬号の復活が3台目となったことについて「うれしく思います。もう少し長く続けられるよう頑張っていきたい」と述べ、大鵬さんの遺志を未来へと引き継ぐ思いを新たにしました。



「いろいろな人に助けられてきた。スポーツの力を借りて社会に還元していきたい」



# そばを食べて日赤支援 ゆで太郎が基金設立

日本そばのチェーン店「ゆで太郎」を全国にフランチャイズ展開する株式会社ゆで太郎システムがこのほど、日本赤十字社の活動を支援していくための基金「いのちを守り笑顔を育む ゆで太郎夢基金」を設立。1月18日に日赤本社(東京・港区)で設立調印式が行われました。

同基金は、ゆで太郎各店舗の来店一回につき一円を同社が日赤へ寄付。日赤は災害救護や社会福祉事業などの人道支援活動にこれを役立てていくものです。現在、東日本を中心に国内124店舗、海外4店舗を展開している同社は、これまでも東日本大震災被災地への寄付な



ゆで太郎のそばは「挽きたて」「打ちたて」「茹でたて」がモットー。調印式後、日赤本社近くの店を訪れた近衛社長は「私もそばが大好き。味にはうるさい方だが、本当に美味しい」



ゆで太郎各店では来店一回につき一円を日赤に寄付することをPR。寄付がどのような活動に役立てられたかの報告も貼り出される予定です

どを進めてきました。しかし、「過性で終わらせるのではなく、継続的な取り組みとして、お客さまや取引先、従業員だけでなく、それ以外の大勢の方がたにも感謝を届けていくのが夢基金。お客さまにも寄付に参加している気持ちを持っていただけ言葉を述べました。

同社の池田智昭社長は「企業の社会貢献の一つとして、お客さまや取引先、従業員だけでなく、それ以外の大勢の方がたにも感謝を届けていくのが夢基金。お客さまにも寄付に参加している気持ちを持っていただけ言葉を述べました。」と抱負を語ります。

日赤の近衛忠輝社長は「そばを介したお付き合いは、長く続くといいわね。ゆで太郎夢基金が長く続き、大きく成長すること祈念しています」とお礼の言葉を述べました。



ゆで太郎システムの池田社長(調印書の左)と日赤の近衛社長(同右)

### 常任理事会開催報告

平成28年1月15日、本社において平成27年度第9回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会は付議事項はありませんでしたが、第32回赤十字・赤新月国際会

議への参加、核兵器廃絶にかかる国際赤十字の取り組み及び予算の補正にかかる12月分の社長専決事項の決定状況についてそれぞれ報告しました。

### 第87回代議員会開催公告

平成28年3月18日(金)、午後1時から新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」(東京都千代田区霞が関3丁目3番2号)において第87回代議員会を開催し、左記の事項を付議いたします。

第1号議案	日本赤十字社 定款の一部変更について
第2号議案	役員を選出について
第3号議案	平成28年度事業計画について
第4号議案	平成28年度収支予算について

平成28年2月1日 記

## 知って良かった! 日赤のドクター&ナースが教える健康豆知識

### ②1 逆流性食道炎は薬と生活習慣でコントロールを 唐津赤十字病院 第一内科部長 野田隆博さん

胃酸が食道に逆流してくる結果、食道にびらんや潰瘍などができてしまうのが逆流性食道炎。症状としては、胸やけや呑酸(酸っぱい物が胸から喉に上がってくる状態)などが挙げられます。

人間の胃と食道の間は通常閉じられていて、食べ物が通過するときだけ開く仕組みになっています。この開けたり、閉じたり役割を担っている下部食道括約筋の動きが悪くなることで逆流性食道炎の原因です。食道と胃の境目の「しまり」が悪くなることにより胃酸が食道に流れ込んでしまうのです。

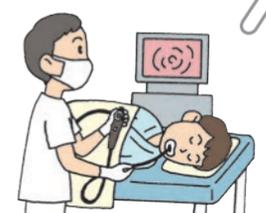
男女に関わりなく、中高年以降に目立ってくる

病気で、最近では患者数が増えています。背景の一つとして、ピロリ菌感染者の減少が指摘できます。ピロリ菌感染による慢性胃炎が進行すると胃酸が減ってきます。このことは、逆流性食道炎に関しては防御的に働きます。一方で、ピロリ菌は胃がんの主要因となっています。逆流性食道炎はいのちにかかわる病気ではありません。胃がんのリスクを考えれば、ピロリ菌の除菌は正しい選択だと思います。

医師の診察を受けるかどうかは、胸やけや呑酸などの症状と相談して決めてください。胃酸をコントロールするいい薬があり、かなり症状を

抑えられます。ただし、下部食道括約筋の動きを良くする薬はないので、根本治療は困難です。服薬と合わせて、生活改善を図っていきましょう。

生活改善のポイントの一つは、胃や食道を荒らすタバコやアルコールを減らすこと。二つ目は胃酸の逆流を招きやすい姿勢を取らないこと。食べてすぐ横にならない、就寝時に上半身を高くする、お腹を圧迫する前かがみ姿勢を続けないことなどです。そして体重管理です。お腹周りに脂肪がつき過ぎると、腹圧で胃酸が上に押し上げられるリスクが高くなります。太り過ぎに注意しましょう。



▲逆流性食道炎の診断は、症状から判断可能。ただし、自治体によっては薬の処方前提として胃カメラによる診断が必要となることもあります

唐津赤十字病院  
〒847-8588 佐賀県  
唐津市ニタ子一丁目5番1号  
TEL:0955-72-5111 (代表)

# キティちゃんが キラキラ笑顔を運んできたよ!

## 社会福祉施設の 子どもたちを訪問



施設の子どもたちは年齢層が広く、障がいレベルもさまざま。写真撮影では、そんな子どもたちの状態に合わせて、しゃがんだり、手を握ったりとポーズを工夫してくれたキティちゃん

日本赤十字社が運営する社会福祉施設を株式会社サンリオの人気キャラクター「ハローキティ」(キティちゃん)が昨年10〜12月に相次いで訪問。間近で見るとキティちゃんに子どもたちからは大きな歓声が上がりと、「かわいー!」「大好き!」と笑顔が広がりました。

キティちゃんが訪問したのは、青森県立はまなす医療療育センター、大阪赤十字病院附属大手前整肢学園、徳島

キティちゃんは、一人ひとりと握手をしたり、記念撮影をして交流。どの子もキラキラと輝き、いつも以上のニコニコ顔です。駆け寄って抱きつく子や一生懸命書いた手紙を手渡す子、手を伸ばして側に来てほしいことをアピールする子どもなど、みんな全身を使って喜びを表現していました。

施設からは「長年、家族と離れて暮らしたり、外出が難しい子どももいます。キティちゃんと会えた驚きや喜び、そして、またキティちゃんに会いたい」という希望など、たくさん新鮮な感情を子どもたちは見せてくれました」とサンリオとキティちゃんへの感謝のメッセージが寄せられています。

# 造血幹細胞移植事業広報誌「BANK! BANK!」創刊

## 若者ターゲットにドナー登録などをPR

白血病などの治療で行われる造血幹細胞移植に欠かせないのが造血幹細胞のドナー(提供者)登録。日本赤十字社は、このドナー制度の普及を目指した広報誌「BANK! BANK!」を1月15日に創刊しました。

現在、日本では1年間に約1万人が白血病などの重い血液の病気と診断されています。治療法の一つが、血液を造る細胞＝造血幹細胞の移植です。

造血幹細胞移植は、適合する造血幹細胞を持つ人は数百〜数万人に一人の確率。そこで事前にドナーを募り、登録しておく制度が作られています。その一つが骨髄バンク(※1)、もう一つがさい帯血バンク(※2)です。日赤は、二つのバンク制度の普及啓発などを行う「造血幹細胞提供支援機関」に指定されています。

広報誌「BANK! BANK!」は、日本では1年間に約1万人が白血病などの重い血液の病気と診断されています。治療法の一つが、血液を造る細胞＝造血幹細胞の移植です。

造血幹細胞移植は、適合する造血幹細胞を持つ人は数百〜数万人に一人の確率。そこで事前にドナーを募り、登録しておく制度が作られています。その一つが骨髄バンク(※1)、もう一つがさい帯血バンク(※2)です。日赤は、二つのバンク制度の普及啓発などを行う「造血幹細胞提供支援機関」に指定されています。

造血幹細胞移植は、適合する造血幹細胞を持つ人は数百〜数万人に一人の確率。そこで事前にドナーを募り、登録しておく制度が作られています。その一つが骨髄バンク(※1)、もう一つがさい帯血バンク(※2)です。日赤は、二つのバンク制度の普及啓発などを行う「造血幹細胞提供支援機関」に指定されています。



造血幹細胞移植情報サービス  
<http://www.bmdc.jrc.or.jp>

Facebook  
<https://www.facebook.com/BANK-BANK-719147488186984>

# 目指せ! 東京国際フォーラム LOVE in Action「Song for the Life 音楽コンテスト」 応募作品受付中

いのちや愛、友情、助け合いをテーマにしたオリジナルソング(詞と曲)の表現を通じて、赤十字運動への理解と協力を広げて、「Song for the Life 音楽コンテスト」の応募作品を3月19日まで受付中です。

同コンテストは、若年層を対象とした献血推進プロジェクト「LOVE in Action」の一環として今回初めて実施して

東京国際フォーラムへの出場権をかけたコンテスト開催!

### Song for the Life 音楽コンテスト

いのち、愛、友情、助け合いなどをテーマに、オリジナルの楽曲と作詞で自由に表現しよう!

コンテストの実施概要など詳細は、ホームページ([http://jrc.or.jp/activity/blood/news/151209\\_003993.html](http://jrc.or.jp/activity/blood/news/151209_003993.html))をご覧ください。

# 179カ国・ 地域から7000件

## 世界中の市民が 赤十字へ提言

国際赤十字は、赤十字が取り組む人道支援活動について「Voices to action」と題した意見募集を昨年8月から11月末まで実施。世界179の国と地域から7000件(うち日本からは54件)を超える提言がインターネットを通じて寄せられました。

保健衛生に関して寄せられたのは、「応急処置ができたのは、応急処置ができたのは、応急処置ができたのは、」

特に目立ったのが、貧困や紛争、移民流入、安全な飲料水の不足、マラリアのまん延、保健施設の不足など途上国が抱える様々な困難に対する提言です。

洪水被害が多発するパングラデュからは「洪水の予想水位よりも高い場所に井戸を設置してほしい」という切実な訴えが、干ばつにたびたび襲われる西アフリカの



今後、各国赤十字社や政府機関、一般市民などが人道支援活動を実施していく際のアイデアに生かされていくことが期待されています。

議の中で参加者に共有され、これらに賛同する赤十字国際会議に開催された赤十字国際会議の中で参加者に共有され、今後、各国赤十字社や政府機関、一般市民などが人道支援活動を実施していく際のアイデアに生かされていくことが期待されています。



## 「介護ボランティア養成機関としての役割発揮を」

富田博樹・事業局長

### 在宅医療のバックアップを

地域包括ケアシステムの中で日赤が果たす役割の一つが、在宅医療への支援です。

在宅医療の多くは、地域の開業医の先生が中心となりますが、患者さんの急変時に入院させる病院探しに苦労されたり、退院後のケアについても大きな負担がかかっています。地域の複数の病院が協力し合い、急患の高齢者を受け入れる仕組みづくりや開業医の先生への支援などが不可欠ですが、赤十字病院はその先頭に立たなければなりません。今回ご紹介している地域に密着した柏原赤十字病院の訪問診療はその一つの例です。

在宅医療を広げていく中で、高い能力を持った訪問看護師の養成も急務です。すでに赤十字病院では、訪問看護師の育成を課題の一つにしていて、訪問看護ステーションの設置数も46施設(92施設中)にのぼります。この方向をさらに強めていく必要があります。

### 地域で担う在宅介護

一方、在宅介護の担い手として期待されているのがボランティアです。元気な前期高齢者の人たちがボランティアとして在宅介護を担う一員となり、地域全体で高齢者を支えていくことを目指します。私は、この介護ボランティア養成を全国規模で展開していくことも日赤に求められる役割だと考えています。

すでに介護ボランティア養成のトレーニング内容と重なる講習として、7年前から「健康生活支援講習」を実施しています。今年の4月からは、在宅での看取りや認知症対応の項目を充実させるなど、地域包括ケアを意識して改訂された講習テキストが導入されます。全国の赤十字病院や高齢者福祉施設は、健康生活支援講習の講師として看護師、職員を地域に派遣し、介護ボランティア養成をこれまで以上に支えてほしいと思います。

さらに、これまでも赤十字奉仕団などにより実施されてきた在宅高齢者の見守りや生活支援も、この包括ケアシステムの推進の一助かりです。

### 課題は他団体との連携

地域包括ケアシステムに対応していくための取り組みを日赤が成功させていくには、支部と病院の密接な協力が最も重要です。さらに、地域包括ケアの中での役割発揮には、他機関との連携も重要になってきます。一つは、

「社会福祉協議会」との連携です。社協は地域でのさまざまな社会福祉活動の窓口となっている団体で、行政そして地域住民とつながっています。介護ボランティア養成へ向けた健康生活支援講習の普及のカギは、社協との連携にあると考えています。

また、介護保険法に基づき各市町村に設置されている「地域包括支援センター」との連携も大切です。同センターは、地域における介護相談の窓口となる組織。介護ボランティアが地域の介護ニーズに沿った活動をしていくには、地域包括支援センターとの連携が欠かせないからです。

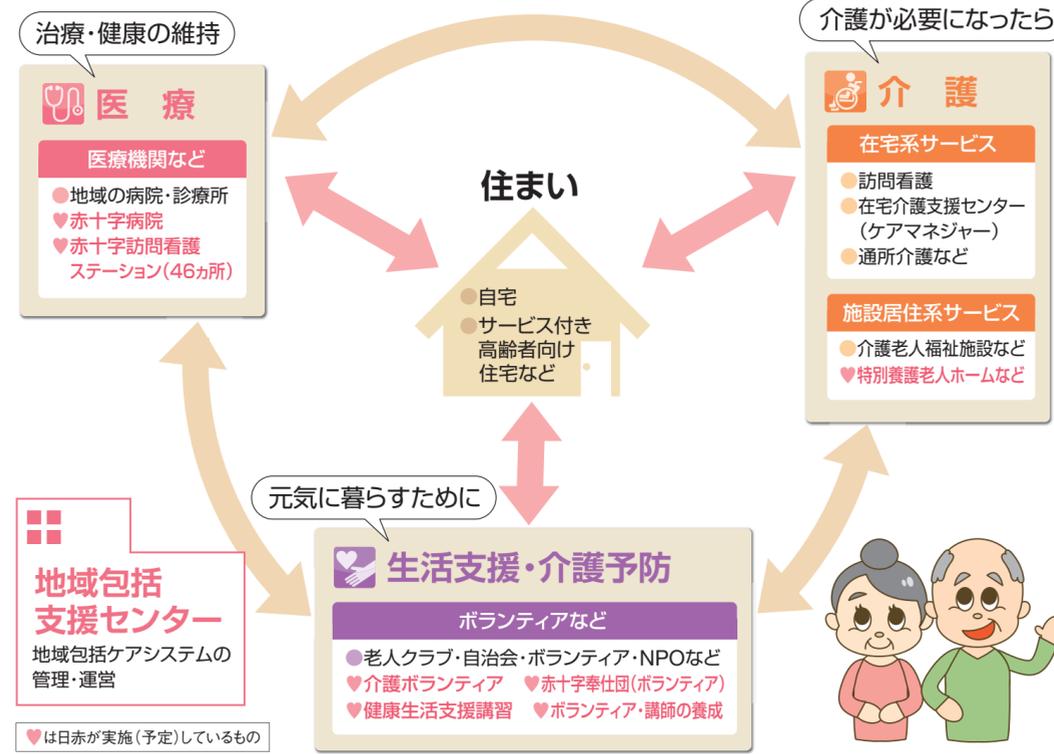
高齢化社会の中、誰も避けることができないのが介護問題です。そして、要介護者やその家族のサポートは、赤十字の本質である「人道」の実践にかなうもの。日赤の地域包括ケアシステムへの取り組みは始まったばかりですが、しっかりと役割を果たしていくことが、国民からの日赤への信頼醸成にもつながると確信しています。



# 地域包括ケアシステム×日本赤十字社 医療支援・ボランティア支援 地域支える先頭に

要介護状態の高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくための環境整備を図る「地域包括ケアシステム」。困塊世代が75歳以上を迎える平成37(2025)年の実現を目指し、全国で準備が進められています。この背景にあるのが急速に進む少子高齢化です。病院や施設だけで高齢者医療・介護を担っていく制度

の限界が露呈する中、関係機関と住民が手をつなぎ、地域全体で高齢者を支えていくシステムの構築が不可欠になっています。医療や福祉の施設を全国に抱えるとともに、奉仕団など草の根組織を持つ日本赤十字社も、積極的な役割を果たしていかなければなりません。



## 秋田県湯上市赤十字奉仕団 地域包括ケア先取りの高齢者支援を実践

「顔も知らなかった方から『ありがとう』と感謝されると、頑張ろうという気持ちになるんです」。さまざまな高齢者支援に取り組む秋田県湯上市赤十字奉仕団。委員長の小玉喜久子さん(77)は活動の魅力をそう語ります。

同奉仕団は平成17年の市町村合併に伴い3つの奉仕団が合併して誕生。高齢者支援は、旧飯田川町赤十字奉仕団による活動を引き継いだもので、10年前に秋田県支部の「地域高齢者生活支援活動推進事業」のモデル指定を受け、活動を充実させてきました。小玉さんは「秋田は高齢化率が高い地域。活動は“私たちが何かしなければ”という思いから始めました」と振り返ります。

現在団では、郷土料理の「だまご鍋」を高齢者の皆さんに振る舞ったり、盆踊りを一緒に楽しむ交流会を新米収穫の時期に開催。また、特別養護老人ホームでのボランティア活動など地域包括ケアを先取りする形で、住民同士の助け合いも実践しています。婦人会がそのまま奉仕団になっている地域のため、行政や老人会などとも連携が取りやすいことが、活動を進める上での利点になっているそうです。

「団として毎年開いている健康生活支援講習は、要介護の方とお会いするときの自信と安心につながっています。今年度は市の包括支援センター主催による介護予防教室も受講しました。私たち自身の介護予防にも注意しながら、活動を続けていきたいと思っています」



## NEW!今年4月～ 健康生活支援講習 地域包括ケアシステムへの貢献を目指して改訂

高齢者支援の基礎知識や技術などを学ぶ健康生活支援講習。全国で年間2886回(平成26年度)開催されていて、平成21年のスタートから26年度までに延べ5万5300人が受講しました。今年4月からは、地域包括ケアシステムの中で活躍できる人材の育成を目指し、講習内容の一部が改訂されます。

改訂ポイントの一つは、健康寿命<sup>®</sup>を延ばすため、健康増進と介護予防の知識・技術をより重視している点。運動習慣、健康増進などの項目を拡充しました。二つ目は、地域社会の「互助」へ向けて、高齢者を介護の担い手として位置づけた点です。認知症への理解と対応についても充実・改訂しました。認知症高齢者へ寄り添い、良好な人間関係を作ることが、徘徊や暴言などの行動・心理症状の軽減につながるなど最新の実践・研究成果を盛り込んでいます。人生の最期を自宅で迎えられるよう、終末期医療への自己決定を促すとともに、在宅での看取りに向けた理解と準備を学ぶ項目も強化しました。

※健康寿命=健康上の問題がなく、介護・看護なしに日常生活を送れる期間



参加者が意見を出し合っていくワークショップ型で進められるのが健康生活支援講習の特徴です



認知症を支える市民サポーターを養成する全国キャラバン・メイト連絡協議会と連携し、「認知症サポーター養成講座」に準拠した小冊子「地域で支える認知症」(左)を短期講習用として作成。その活用を図ることで講習受講者が、地域で活躍していくことも目指します。4月から導入される健康生活支援講習のテキスト(右)

## 「ときどき入院 ほぼ在宅」 在宅高齢者を支える地域のチームプレー

### 柏原赤十字病院の挑戦

「具合はどうですか?」。月2回の訪問診療に訪れた柏原赤十字病院の片山覚院長が声をかけたのは、今年3月で98歳になる斎藤たか子さん(仮名)。自宅の居間に置かれた介護用ベッドの上で目を閉じながら微笑んでいます。

付き添いで介護をする娘の山田恭子さん(67・仮名)は「先生に訪問診療していただけるし、訪問看護もありです。何かあっても看護師さんに電話をすれば来ていただけるので安心です」と話します。

原赤十字病院がここ10年余り力を入れているのが高齢者の訪問診療や訪問看護を中心とした地域医療です。

片山院長は「誰でも住み慣れた家に住み続けたい。それを支えるのが私たちの取り組み。病氣予防や重症化を防ぐ『支える医療』を充実させていくことで、病気を抱える高齢者でも自宅で安心して生活することが可能になる」と話します。

しかし、この取り組みは1病院の頑張りだけでは不可能。同院の福原智昭事務部長は「訪問診療の中心を担うのは地域の開業医の先生。私たちは、訪問看護ステーションや地域包括ケア病床でその支援を行っていくイメージで役割分担をしています」と



「支える医療」は亡くなるまでのケアを前提とする医療。亡くなられたとき、医師や看護師、家族を含めた全員が「これで良かった」と悔いを残さない治療が求められます。それはお互いの信頼関係の上に成り立つものだと思います」(片山院長)

の医療機関などとの連携を強調します。脳梗塞を患い、ほぼ寝たきり生活を送る村田大助さん(84・仮名)は、そうした地域連携による医療サービスを受けている一人です。訪問診療は近所の開業医が担当。柏原赤十字病院からは訪問看護と訪問リハビリテーションを週に各1回ずつ。月に1回は歯科医師・歯科衛生士も訪問し、口腔ケアも実施しています。



他の医療機関や介護関係者との連携には情報共有が不可欠。地域医療連携支援システム(EIR)は、在宅療養の患者を対象に、医師や看護師、介護ヘルパーなど支援者が情報を共有し、連絡を取り合うことができるインターネットツール

### 病院と在宅をつなぐ 地域包括ケア病床

柏原赤十字病院で在宅療養の窓口になっているのが「ときどき入院 ほぼ在宅」をモットーに掲げ

### 地域ぐるみで高齢者の見守りを

しかし、高齢者の中には生活に困難を抱える人が少なくありません。1月中旬、院内外の関係者がさまざまな角度から退院に向けた検討を行う会議で、一般病床から地域包括ケア病床への転床が議論された女性の場合、本人も夫も「家に帰りたい(戻りたい)」という希望を持っていました。しかし、酸素吸入が必要な状態にも関わらず禁煙ができていなかったり、軽い認知症の影響による生活上の問題が明らかに。訪問看護師やケアマネジャーからは「家の衛生環境に問題あり」「(地域の誰かの)声かけが必要だと思うができていない」などの報告があがってき

ました。片山院長は「病院だけでなくには限界があります。地域のチームプレーが必要。医療や介護、行政の関係者はもちろん、住民やボランティアも含めて、高齢者を見守る目を増やしていくことが求められていると思います」と地域包括ケア病床への転床が議論された女性の場合、本人も夫も「家に帰りたい(戻りたい)」という希望を持っていました。しかし、酸素吸入が必要な状態にも関わらず禁煙ができていなかったり、軽い認知症の影響による生活上の問題が明らかに。訪問看護師やケアマネジャーからは「家の衛生環境に問題あり」「(地域の誰かの)声かけが必要だと思うができていない」などの報告があがってき

- 柏原赤十字病院の地域医療の取り組み
平成16年: 訪問看護ステーション設置
24年: 在宅介護支援事業所設置
25年: 在宅療養支援病院に指定
26年: へき地医療拠点病院に指定
26年: 地域医療連携支援システム(EIR)導入
26年: くらしの保健室開設
26年: 地域包括ケア病床開設

### 「いのちの大切さ」考える赤十字ポスターコンクール



兵庫県

兵庫県支部は、県内の小・中・高・特別支援学校の児童・生徒を対象に「平成27年度赤十字ポスターコンクール」を開催。昨年11月24日の支部創立125周年記念兵庫県赤十字大会で、最優秀賞に選ばれた嵐萌希さん(兵庫県立兵庫工業高校2年)に支部長から表彰状が贈られました。



最優秀賞を受賞した嵐さん。「まさか自分が受賞するとは夢にも思わなかったです」

コンクールは阪神・淡路大震災から20年の節目に、次代を担う子どもたちに赤十字活動を通して、「いのちを救う、いのちを守る」ことの大切さを考えてもらおうと実施。県内50校から340作品が寄せられました。嵐さんは「赤十字のことを調べ、感じたことを表現しました」と語っています。

### 海上保安部との連携強化をめざす取り組み



大分県

大分県支部は12月18日、海上保安部との災害時の相互応援協定をより実効あるものにするため、大分海上保安部を訪問。同支部管内の各施設で災害救護活動の中核を担う医師・看護師・主事10人が、巡視船内で医療活動を行う際の注意点や医療セットの展開スペースなどを確認しました。



海上保安部はいざというときのパートナー。説明を受ける赤十字職員はみな真剣です

前日には第七管区海上保安本部福岡航空基地を訪問。大規模災害時に支援活動を行う航空機やヘリコプター搭載型大型巡視船を見学しました。県支部と同保安部は災害時に一人でも多くの被災者を救うため、それぞれの研修会に参加して相互理解を深めるなど、パートナーとしての絆を強める取り組みに力を注いでいます。

### 看護学生が人命救助 「のじぎく賞」を受賞



兵庫県

ランニング中に意識を失って倒れた男性に心肺蘇生を行い救命したとして、姫路赤十字看護専門学校2年生の阿部可奈子さんがこのほど、人命救助に貢献した人などに贈られる兵庫県の「のじぎく賞」を受賞しました。



「のじぎく賞」を受賞した阿部さん。佐藤四三(右)からは善行に対して表彰状も贈られました

阿部さんは昨年12月20日昼頃、姫路市内の県道脇土手で倒れていた男性(61)を発見。119番通報の後、救急車が到着するまでの約10分間、胸骨圧迫(心臓マッサージ)や人工呼吸を行い、男性は一命を取りとめることができました。

阿部さんは「赤十字救急法を学び、できるだけ早く心肺蘇生を行うことの重要性を知っていました。何とかして助けたいと思いました」と語っています。

### 名門ホテルが献血会場 名古屋城と生演奏を満喫



愛知県

愛知県赤十字血液センターは12月28日、「献血 in ウェスティンナゴヤキャッスル」を名古屋市内にある同ホテルで開催しました。今回で9回目となる、年末恒例の行事です。



名古屋城の天守閣や石垣、お堀などが見渡せる絶好のロケーション

会場となったのは、名古屋城の天守閣を一望できる大宴会場その名も「天守の間」。来場者にはピアノの生演奏が流れる中、ゆったりとした気分で献血をしていただきました。また献血後にはホテル特製のケーキセットが振る舞われました。

今回は例年を上回る172人が献血。17歳の高校生は「素敵な会場で気持ちよく献血ができました。献血は思ったほど怖くありません」と笑顔で話しました。

### 学生らが参加して災害時の高齢者支援を演習



長野県

長野県支部は12月14日、長野市内の長野女子短期大学で避難所での高齢者支援について災害演習を実施。介護福祉士を目指す同短大の学生18人と地元住民が多数参加しました。



避難者の年齢・家族構成・病気などの情報カードを使いながら、避難所のあり方を学びました

包装食袋を使った炊き出し訓練では、参加者から「袋でご飯が炊けることに驚いた」「水の量を工夫することで、高齢者にも食べやすい柔らかいご飯が炊ける」などの感想が寄せられました。避難所運営を疑似体験できる「避難所運営ゲーム」では、グループに分かれて、さまざまな課題に取り組みました。

参加者は演習を通して、災害時に発生する困難や、個人の備えとともに地域の備えが必要であることなどを学びました。

### 「これからきちんと洗うよ！」保育園児に手洗い教室



富山県

富山赤十字病院は12月9日、高岡市内の戸出北部保育園で手洗い教室を開きました。同院職員が「手洗いマスター レッドクロスマン」というヒーローに扮し、紙芝居を使って園児たちに手洗いの大切さと方法を伝えました。



ばい菌を許さないレッドクロスマンの闘いは、これからも続きます!

真剣なまなざしで話に聞き入る園児たちからは、「どうしてばい菌がつくの?」などの質問が。実際に手を洗った後、紫外線を使って細菌の有無を見ることができるブラックライトで洗い残しを確認すると、「ばい菌がいっぱいだね。これからはもっと手洗いをがんばる」という園児もいました。

低年齢の段階から、手洗いによって衛生を保つ習慣を付けることの重要性を再認識しました。

### 子どもたちに笑顔のプレゼント 赤十字各施設でクリスマス会

茨城県 / 新潟県 / 富山県 / 東京都

病院に入院したり、乳児院で生活するなど、家庭から離れて暮らす子どもたちにとっても、クリスマスは楽しいイベント。日本赤十字社の各施設は工夫を凝らしたイベントで笑顔を届けました。

茨城県支部乳児院のクリスマス会では、ボランティアや職員による楽器演奏、人形劇、手品などの出し物に子どもたちは大はしゃぎ。子どもたちの元気なダンスに、会場は温かな拍手と笑顔に包まれました。

長岡赤十字病院は12月24日、小児科医と研修医がサンタクロースに扮して入院中の子どもたちを訪問。「サンタ・プロジェクト・ながおか」に賛同した地域の皆さんから贈られた本とクリスマスカードをプレゼントしました。

富山赤十字看護専門学校の学生12人は、12月24日に富山赤十字病院と院内保育園を訪問。「ジングルベル」などのクリスマスソングをハンドベルで演奏しました。

絵本の読み聞かせで活躍中の「聞かせ屋。けいたろう」さんを招いたクリスマス・イベントを開催したのは葛飾赤十字産院。12月19日の読み聞かせ会には60人を超える親子が参加し、絵本の世界を堪能しました。25日には医師・看護スタッフがサンタクロースに扮して病棟訪問を行いました。



### 24時間ホットラインの性暴力救援センターを開設



愛知県

名古屋第二赤十字病院は1月5日、全国の性暴力被害者からの相談を24時間体制で受け付ける「性暴力救援センター日赤なごや・なごみ」を開設しました。被害直後から回復までの継続した支援を行うことで、暴力被害の影響が世代を超えて連鎖することを断ち切り、人びとの健康と福祉の向上に寄与していくのがセンターの役割。性暴力被害者支援専門看護師22人と民間の支援員20人が、ホットラインを通して被害者に寄り添い、必要な支援につなぎます。同院の片岡笑美子副院長兼看護部長は「被害者は心身ともに傷つき、誰にも相談できず苦しんでいます。一人でも多くの方が安心して相談できるワンストップ支援センターを目指します」と話しています。



支援員(アドボケーター)らが24時間ホットライン(電話052-835-0753)で被害者に寄り添います

### ここからの寄付に感謝 三菱東京UFJ銀行の顧客有志一同さまから寄付

株式会社三菱東京UFJ銀行決済事業部顧客有志一同さまからこのほど日本赤十字社に寄付が寄せられました。いただいた寄付は、災害が発生した際の医療救護・被災者支援に必要な物資・資機材の整備のほか、救護要員の訓練などに有効に活用させていただきます。気持ちのこもった今回のご好意にこそより御礼申し上げます。

## Voice & プレゼント

**Voice** 赤十字NEWSにお寄せいただきました読者の皆さまの声をお届けします。

民族対立や宗教の違いによって弱者が犠牲になる不条理な事実とそれに屈することなく中立的立場で活動する各国赤十字の精神にとっても共感しました。日本は国内での宗教対立や民族対立というものがないので、分かりにくい面はありますが、そういう国に住んでいる私だからこそ何かできることがあるのではないかと思います。

—扇大樹さん(福岡県)

本校(御北小学校)の保健栽培委員会でカボチャと宇宙イモを育てて道の駅で販売しました。その売上金の中から子どもたちの意見で赤十字に募金しようということになり、わずかな金額でしたがマットと毛布が支援できるように郵便局から送金しました。

—河本君子さん(岡山県)

**3月には東日本大震災から5年を迎えます。被災された方がたへの皆さまの思い、メッセージを赤十字NEWSへお寄せください。**

### プレゼント

メッセージをお寄せいただいた方の中から、10名様にクロスコースターをプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

東北地方の杉を使用したクロスコースター(南三陸町で作業を行い、被災地の雇用促進に貢献しています)



- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS2月号を手に入れた場所(例/献血ルーム)
- ⑥2月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(いくつでも)
  - Ⓐ 今月の出会い Ⓑ 青木功さん「大鵬号」贈呈式
  - Ⓒ 一杯一円! ゆで太郎が基金設立 Ⓓ 健康豆知識
  - Ⓔ キティちゃん 社会福祉施設の子どもたちを訪問
  - Ⓕ Voices to action 世界中の市民が赤十字へ提言
  - Ⓖ Song for the Life 音楽コンテスト応募作品受付中
  - Ⓗ 造血幹細胞移植事業の広報誌創刊
  - ① 特集 地域包括ケアシステム×日本赤十字社 ② エリアニュース
  - Ⓚ Voice&プレゼント ① マングローブ植林から総合的な防災へ ベトナム
  - Ⓜ シリア紛争犠牲者支援 看護師派遣 ④ 血液バッグ緊急支援 ネパール
  - ⑤ コラム 被爆70年 守るべきいのちと尊厳
  - ⑦被災された方々へのメッセージ

応募先 ● 郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3  
日本赤十字社 企画広報室 赤十字NEWS2月号プレゼント係  
FAX / 03-3432-5507  
メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS2月号プレゼント係」)

応募締切 ● 2月29日(月)必着  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

### 「NHK海外たすけあい」キャンペーン 世界への支援に全国で募金活動

日本赤十字社とNHKが共同で取り組む「NHK海外たすけあい」(毎年12月1~25日)は、紛争や災害に苦しむ世界の人たちへ支援を届けるための募金キャンペーン。昨年12月も赤十字奉仕団や青少年赤十字(JRC)を先頭に、全国で街頭募金やチャリティーイベントなどが行われました。



中日ドラゴンズ演田達郎選手らを招いたトークショーで盛り上がった名古屋市内のチャリティーイベント(愛知県)



県内7カ所の街頭募金では、22のJRC加盟校、4つの赤十字奉仕団などの170人が協力を呼び掛け(鹿児島県)



横浜市立みなと総合高等学校のJRCメンバー40人は、横浜中華街で2日間にわたり街頭募金を実施(神奈川県)



支部創立「120周年 赤十字パネル展」に「海外たすけあい」のパネルも展示し、募金を呼び掛け(奈良県)



松江市内のチャリティーバザーには、県民や県内企業が多く物品を寄付。販売員は奉仕団員らが協力(島根県)



NHK甲府放送局などと共催したイベントでは、JRC加盟校の相川小学校合唱部などが合唱や演奏を披露してアピール(山梨県)

### 人気アプリゲーム「Ingress」で献血を呼び掛け



中四国・近畿・関東甲信越

スマートフォンの位置情報などを利用する人気アプリゲーム「Ingress(イングレス)」のプレイヤーによる集団献血協力イベントが国内外で盛り上がっています。一昨年6月14日の世界献血者デーにあわせて世界中で行われ、国内では昨年5月に広島、昨年6月と今年1月2~24日に関東甲信越、1月4~17日に近畿でも実施されました。



「REDFACTION」に参加し、献血中も笑顔でIngressを楽しむプレイヤー

昨年12月12~27日の16日間、「REDFACTION(レッドファクション)in中四国」を開催した中国・四国9県の赤十字血液センターには、献血ルーム全15施設で延べ186人のプレイヤーが参加。「今回のイベントがきっかけで17年ぶりに献血しました。今後は定期的に献血したい」との声も聞かれました。

### 福祉施設での看護の役割は? 留学生が特養見学



福岡県

日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市)に留学中のインドネシアの看護学生3人と教員1人が、特別養護老人ホームやすらぎの郷(福岡県粕屋郡)を訪問しました。研修の一環として行われたもので、日本の高齢者福祉施設の概要を知り、福祉施設での看護の役割や、介護職員など他の職種との連携のあり方を学ぶのが目的です。



施設内が清潔に保たれていて臭いがないことに、留学生らはとても感心していました

留学生らはデイサービスと特別養護老人ホームを見学。高齢者施設の看護師には、利用者の健康管理に加え、介護職員からの相談への対応や助言、通院の付き添い、施設内での感染予防など、幅広い役割があることを学びました。

# WORLD NEWS

ネパール

レバノン

ベトナム

## ベトナム災害対策事業 マングローブ植林から総合的な防災へ

近年の目覚ましい経済発展が注目されるベトナムで、日本赤十字社はベトナム赤十字社（以下、ベトナム赤）とともにマングローブの植林を始めとする災害対策事業を1995年から行っています。2011年からの第4次5カ年計画の最終年度を迎え、昨年12月に首都ハノイで事業評価と併せて、ワークショップを開催。防災教育事業の成果などを確認しました。

### 東京ドーム2210個分の緑の壁

ベトナムでは気候変動により台風や高潮の回数・規模が年々拡大。海岸・河岸の住民や田畑が深刻な影響を受けてきました。被害拡大の一因が、防波堤の役割を果たしていたマングローブ\*の激減です。

1960年代以降、伐採で次々とマング



すくすくと育つマングローブ

ローブが消えていく事態に危機感を抱いたベトナム赤タイビン省支部は、マングローブ植林事業の立ち上げを提言。デンマーク赤十字社の支援で具体化した植林活動に日赤も加わり、植林地は拡大していきます。2015年までの植林面積（マングローブ以外の種類も含む）は、東京ドーム2210個分に相当する1万388ヘクタールに及び、高潮被害抑制などの効果を上げてきました。

植林は温暖化対策としても高く評価されています。植林されたマングローブが吸収する二酸化炭素は2025年までに1630万トンに達する見通しで、2億1800万ドルの効果を持つといわれています。

\*マングローブ…沿岸地域の湿地帯に広く自生する森林

### いのちを救う防災への取り組み

2001年から2005年に実施された第3次計画では地域住民への防災研修や防災活動が取り入れられました。事業が実施されたハイフォン省のある村では、2013年に台風の直撃を受けた際に一人のいのちも失われなかったことが報告されています。

第4次計画では小学校での防災教育活動が加わりました。ベトナム赤や他団体の啓発活動の成果もあり、ベトナム政府は2018年から公式な学校教育に防災教育を組み込むことを決定しました。

赤十字の事業はベトナム政府が掲げる「2020年までに、災害にぜい弱な約6000のコミュニティーへの災害対応能力を高める」という防災の目標にも貢献しています。



防災教育活動を行う小学校の様子

### 政府との連携強化のステップに

日赤側から大塚義治副社長が参加した今回のワークショップにはベトナム政府高官ら8人も参加。ベトナム赤が政府と連携を深めるための一歩となりました。ベトナム赤のドン・バン・タイ副社長は災害対策事業について「ベトナム赤史上、最も長い期間継続し、最も多くの人に関わり、最も多くの人に利益をもたらすことができた事業」と振り返りました。

日赤は、これまでの事業成果を生かし、発展させていくために少なくともあと1年の活動期間が必要であると判断。1年間の支援継続を行うこととしています。

## シリア紛争犠牲者支援 ICRCの病棟に日赤が看護師派遣

赤十字国際委員会（ICRC）は、紛争状態が続くシリアの負傷者を救援するため2014年9月、隣国レバノンのトリポリに武器創傷外科病棟およびトレーニングセンターを開設。日本赤十字社は同年と昨年の2度にわたり大阪赤十字病院の池田載子・国際救援課長（看護師）を派遣するなど救援活動を支えています。

2011年の紛争開始以降シリア難民100万人以上がレバノン共和国に流出していますが、難民の中には戦闘に巻き込まれて負傷した人も少なくありません。ICRCの武器創傷外科病棟では、そうした負傷者の緊急手術や体の一部を再形成する再建手術などを行っています。

このほど帰国し、報告会に臨んだ池田さんは「再建手術は高度の技術を必要とし、治療にも時間がかかりますが、けがを治すだけではなく負傷者の人生再建にもつながる大切な支援活動です」と強調。また、セ

ンター開設時に携わった看護師教育にも触れ「一年経ってようやく成果が出ていることを実感し、事業の意義深さを感じました」と報告しました。

報告会に参加した大学生からは「紛争地域では、医療ニーズを見据えた包括的な支援が重要だと感じました」と感想が寄せられました。



救援活動に従事する池田看護師（右）

## 血液バッグ約1万セットをネパール赤十字社に緊急支援 ネパール・インド間の国境封鎖で医薬品や燃料が欠乏

昨年4月25日に発生した地震により大きな被害に見舞われたネパールでは、復興に向けた作業が進められていますが、同国の新憲法制定によりインドと国境を接するタライ地域で暴動が発生。その影響で、インドとの国境が昨年9月から封鎖されていて、衣料品や医薬品、燃料などの物資不足が深刻な状態となっています。これまでインドからの輸入に100%頼っていた輸血用の血液バッグなどの不足も続いています。

こうした事態を受け、日本赤十字社は、ネパール赤十字社（以下、ネパール赤）からの要請に応え、血液バッグ約1万セットを2016年2月までに寄贈しました。

ネパール国内では、ネパール赤が同国の血液事業の全てを担っています。同社の事務総長のダクワさんは「この支援は日赤とネパール赤の長期的パートナーシップがあってこそのもので」と支援への感謝を述べました。

燃料不足や計画停電が続くネパールで

は、国民の生活にも影響が出ており、献血に足を運んでくださる方も減少し、輸血用血液製剤の不足が深刻化しています。この状況が続いた場合、輸血を必要とする患者への安定した輸血用血液製剤の供給にも影響が出る可能性があります。

国際赤十字は、この国境封鎖による医薬品や燃料の欠乏が新たな人道危機につながると懸念し、関係者に対し事態の打開を呼び掛けています。日赤ではこの他にも、ネパール地震により影響を受けた血液事業関連のインフラの整備や技術支援など、ネパール赤のニーズに対応した国際協力を継続していきます。



血液バッグを受け取るネパール赤ダクワ事務総長（左）

## 70年 守るべきいのちと尊厳 —核兵器のない世界へ—

### 核兵器の犠牲者は誰も救うことができない～赤十字の訴え～

「男か女かも識別できないくらい、顔中が焼け、髪の毛も縮れ、目も鼻も大きく膨れ上がった人たちが何百何千と長い行列を作った。『早く治療をして、何とかして』と、どんなにか切実な気持ちだったのでしょうか。止血剤、強心剤、化膿止めと薬のある限り注射を打ってあげるか処置の方法はありませんでした」（『いのちの塔 広島赤十字・原爆病院への証言』いのちの塔手記集編集委員会）

1945年8月6日、原爆投下直後の広島市内では、医師300人のうち270人、看護師1700人のうち1654人、140人の薬剤師のうち127人が死亡。爆心直下にあった島病院

や日本赤十字社広島県支部などが壊滅したことはもちろん、そこから約1.5km離れた広島赤十字病院も、建物の外郭だけを残して内部は全焼、備蓄されていた医薬品もすべて灰燼に帰しました。長崎でも救護活動の拠点とされていた長崎医科大学が、赤十字標章を掲げていたにもかかわらず、教員と医学生の大半が即死し、壊滅的な状態に陥りました。

原爆投下から70年余りを経た現在、世界には1万5000発以上の核兵器が存在し、その平均的な威力は、広島型原爆の20倍から30倍で、1発で100万人規模の都市を瞬時に壊滅させるほどです。ちなみに、人類史上最大

の核兵器は1961年に旧ソ連が開発した水爆「ツァーリ・ボンバ（爆弾の皇帝）」で、広島型原爆の約3300倍の威力といわれています。こうしたことから核兵器の使用は、本来、赤十字標章で守られるべき医療施設や赤十字の救援要員でさえも、その対象から区別できず、無差別な影響を及ぼすことは明らかです。このことについて、2010年、赤十字国際委員会（ICRC）のヤコブ・ケレンベルガー総裁（当時）は次のような声明を発しています。

「核兵器による破壊能力は冷戦期間中に数千倍も高まりました。しかし、各国および国際機関による被害者救援能力はそのようには強化されませんでした。ICRCは核兵器のいかなる使用も国際人道法に合致することは不可能であり、その完全廃棄のための交渉を行うことが不可欠だと考えます」

今こそ、それを廃絶するための行動を起こそうという動き（人道的アプローチ）が高まりつつあります。人道的アプローチは、「核抑止力」や「国家の安全保障」といったこれまで核兵器保有国目線の抽象的な議論で覆われていたこの問題に風穴を開けるもので、取り返しのつかない事態になる前に、目を背けてはならない現実があることを、私たちにも訴えかけています。



ヤコブ・ケレンベルガー総裁（2010年当時）